

OECD 東北スクールの背景

背景

2011年3月11日に、日本の北東部、東北地方において、マグニチュード9の巨大地震が発生しました。この地震は、今までの記録上最大のものであり、戦後最悪の災害を引き起こす引き金となりました。地震直後に発生した巨大津波により、多くの人命が奪われ、また、原子力発電所の事故で多くの人々が避難を余儀なくされ、さまざまな形で事故の影響は日本全体に及びました。OECD 事務総長アンヘル・グリアは、この東日本大震災の約1か月後に日本を訪れ([visited Japan](#))、日本の復興、再生に対する OECD の支援を表明致しました。その後、OECD 教育局は、様々な支援を継続的に行って参りました。下記はその例です。

- 自然災害で被害を受けた他の OECD 諸国からの、自然災害に際しての教育政策に関する情報の迅速な収集。
- 東日本大震災の影響を鑑み、教育分野における改革の重要性を捉えた、“Strong performers and successful reformers in education”のビデオ [video](#) を日本語で作成。
- 文部科学省、福島大学、また東北の被災した地域の関係者と密に連携をとりながら、創造的復興をめざした、OECD 東北スクール [OECD/Tohoku School](#) の立ち上げ。

OECD は、子供たちのやる気、興味、そして想像力に高い価値を見出しています。東北スクールは、子供たちのやる気を引き出すため、モチベーションを高める効果的な学習法であると報告されている「プロジェクト学習」を実施します。東北スクールの子供たちに対して、本プロジェクトで与えられるミッション(任務)は次の通りです。

- 2014年にパリで、東北と日本の魅力と創造的復興をアピールするための国際的なイベントを企画・実施する。

このイベントを企画・実行することを通して、子供たちは貴重な能力やスキルを身に付け、彼らの地域、そして国に対しての新しい希望を創造していきます。

東北スクールの最終的なゴールは、創造的教育を通しての地域の復興です。東北スクールでは、創造的教育が、新しい価値感と創造的なビジョンを伴いながら、地域を復興させることができるということを具体的に示していきたいと考えています。

3つの機会

東北スクールでは参加する子供たちに対して、次の様な幅広い機会を提供します。

1. イニシアティブをとり、協力する

プロジェクト学習は子供たちを巻き込んで行われるものです。与えられた任務を遂行するため、子どもたちは実社会でのタスクに向かい、イニシアティブをとり、チームとして協力しなければなりません。

2. プロセスから学ぶ

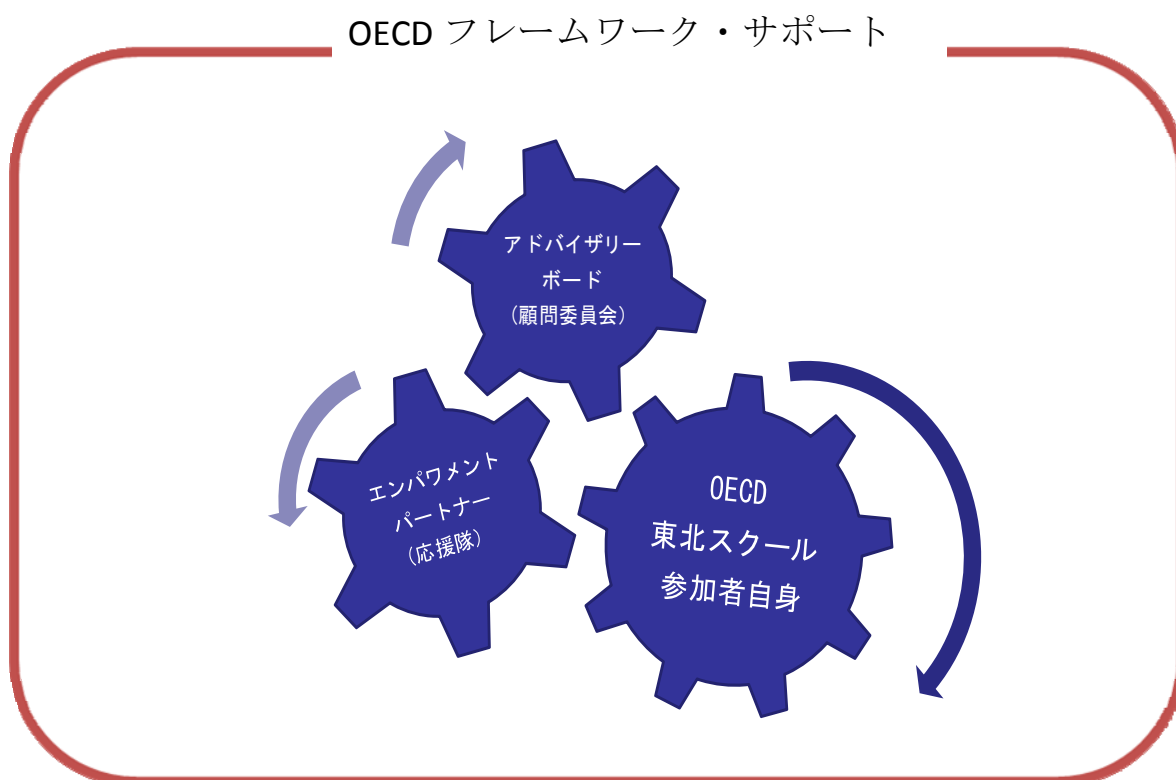
イベントを企画・実行するプロセスを通して、子供たちは、リーダーシップ、建設的批判思考力、交渉力、協調性、想像力、国際性などの能力を育んでいきます。これらの能力は、21世紀に向けての「鍵を握る能力」と合致しています。

3. 将来を考える

子供たちは、自分たち自身の将来を考える機会を与えられます：自分たち自身、家族、コミュニティ・地域、地方、東北、そして日本。これは、東北地方、また地域において、地域政策立案・実行力を高め、地域力を強化する助けとなります。

OECD フレームワーク内での、東北スクールの3つの原動力

東北スクールは、OECD フレームワーク・サポートの中で、主に3つの原動力によって運営されます。



1. 参加者自身—自分自身

東北スクールに参加する子供たちが、東北スクールのメイン・ドライバーです。彼らは、2014年のイベントでのストーリーラインを描くシナリオライターであり、イベントを仕切るディレクターであり、そしてイベントでの重要な役割を演じるアクターでもあります。

イベント開催地は、暫定で OECD 本部を予定していますが、最終的には参加者がパリのどこでイベントを開催したいか、彼らの希望によります。また、予算の状況にも左右されます。現在想定している「草の根大使」の数は、約 100 人ですが、これも自分たちで確保する予算の状況を考慮して、もっと大規模にしたいか、小規模にしたいか、参加者が決めていきます。

イベントの内容と形態は（すなわち、何をどうアピールしたいか）は参加者によって決められます。子供たちは、アイディアの提案、交渉、そしてコンセンサスを学びます。

2. エンパワメントパートナー

人が出会い、友人になると、ポジティブなエネルギーとパワーが生まれます。東北スクールは、知識やスキル、経験、そしてソーシャルキャピタルが共有できる場となるよう、周りの人々に参加を呼びかけています。それらの人々は、自分の持っている経験や考えを共有したいという方であれば、子供でも、大人でも、シニアな方でも歓迎しています。具体的には、友人、メンター、アドバイザー、学習者、そしてメールやペンパルなどになっていただきます。

3. アドバイザリーボードメンバー

東北スクールは「コミュニティスクール」の具現化でもあります。これは、固有のローカルな地域のニーズや要望にこたえるとともに、グローバルなニーズや要望にこたえるものです。そのために、アドバイザリーボードは東北地方、日本の他の地域、そして OECD をつなぐ「架け橋」の役割を果たします。ボードメンバーは、学校の校長・先生、大学関係者、産業界、PTA など、様々はバックグラウンドをお持ちの方々に構成されます。

OECD フレームワーク・サポート

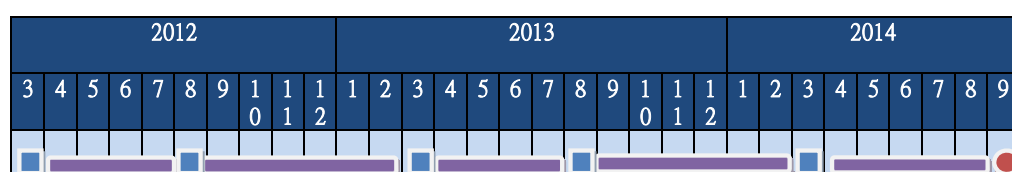
OECD は次の 4 つのエリアでの付加価値 (AV)を提供し、3 つの基本理念 (CP)に基づき活動します。

- AV 1: 教育理論と裏付けに基づくリサーチの共有: OECD は東北スクールのカリキュラムに関して、概念的な枠組みの設定を行います。
- AV2: 他国の事例紹介: OECD は他の国々の教育システムに関し、先進事例の紹介を行います。
- AV3: 学際的アプローチ: OECD は強みである学際的アプローチにより、教育セクターと産業・ビジネスセクターと一緒に動けるよう働きかけ、東北地方の復興に向けて一緒に活動ができるよう支援します。
- AV 4: 国際性: OECD は東北の子供たちが想像力を十分に発揮し、快適なゾーンから抜け出し、東北と世界を結ぶというビジョンをもつ機会を提供します。
- CP 1: 良いイニシアティブのスケールアップ: OECD は同じようなイニシアティブや試みと協調し、創造的復興に向けてクリティカルマスを生み出すようなフレームワークを設定します。

- CP 2: 自助努力と独立性: OECD は、地域が支援やサポートに「依存」するのではなく、創造的復興に向けて、独立して、地域をリードしていく若者に投資するよう働きかけます。
- CP3: 知識の共有とソーシャルキャピタル: OECD はエンパワメント強化と知識とソーシャルキャピタルの共有を促すため、個と個の結び付けを図ります。

プロジェクトの大まかな流れ

2014年までの大まかな流れ



■ 2012 - 14年まで、一週間集中ワークショップ、5回開催

- ❖ 参加者全員での全体スクール。各回の開催地、文部科学省、アドバイザーボードとOECDで共同開催。

■ 2012-14年まで、ウィークエンド・スクール、5回開催

- ❖ 各集中スクールまでの間は 各地域（宮城、岩手、福島）のチーム毎に、ローカルリーダー主導のもとウィークエンドスクールを開催。
- ❖ それぞれの期間は、2014年イベントまで継続的に活動できるように、任務（宿題）が与えられる。

● 2014年 パリで東北・日本をアピールするイベント